

4年生 10月 社会見学

岐阜の伝統工芸品のすごさを知る！

22日（木）の社会見学では、岐阜の伝統工芸品である提灯と和紙について学んできました。初めて知ることばかりで、職人さん達のすごさや、伝統を守っていくことの大変さを感じました。

最初に、岐阜提灯を作っている「株式会社オゼキ」へ見学に行きました。工場では、実際に提灯を作る過程を見せてもらうことができました。職人さんが組み立てから完成まで、実際に目の前で作業をしてくださいました。

まず、提灯の型を組みます。型の枚数によって大きさが決まります。型を組んだら、その周りにヒゴを巻いていきます。今回は85段でしたが、他にも100段や120段も巻く提灯があり、ヒゴを巻く回数が多ければ多いほど、高級品になるそうです。



今回は8枚の型でした。



同じ強さで巻くのが重要！



絵紙は柄がずれないように…

ヒゴを巻き終わったら、絵紙を貼ります。紙の厚さや湿度によって、のりの濃さを変えるそうです。その日のベストな濃さを見つけるのは、経験による勘が頼りなので、まさに職人技です！絵紙を貼り終わったら、型を提灯から外し、仕上げをして完成です。

素早くかつ丁寧にするのが職人です。細かな作業を本当に素早くやっていて、とてもすごかったです。1人前になるには10年かかるそうで、伝統を守る職人はやっぱり大変なのだと感じました。



代表で、班長さん達がヒゴ巻き体験をさせてもらいました。



同じ強さで巻いていくのは大変で、職人さんがそっと手伝ってくれました。

美濃和紙の里会館では、1人1枚ずつ美濃和紙を作る体験をしました。和紙の原料とトロロアオイの根から抽出した液を混ぜた物を「すけた」という道具で、何度もすくって紙にしていきます。「すけた」を思った通りに動かすのが大変で、最後のパッと水をきる所が難しく、苦労していました。それでも、世界に1枚しかない、自分だけの綺麗な和紙を作り上げることができて、みんなとても嬉しそうでした。



美濃和紙ができるまでの様子が見ました。美濃和紙には、1300年の歴史があります。乾燥作業などを機械で行うこともありますが、基本的な作り方は昔からずっと変わらないということがわかりました。1枚の和紙を作るのに10日ぐらいかかること、原料となる楮（こうぞ）の原木100kgからできる美濃和紙はたったの4kgだということなど、色々なことを知ることができました。

めったにできない体験をすることができて、とても勉強になりました。お土産に和紙や和紙でできたしおりを持って帰ることもできました。お忙しい中、送り迎えをしていただいたり、おいしいお弁当を作ってくださいたり、ありがとうございました。